



2012.7.12

8月 ちとせだより

神戸YMCA ちとせ幼稚園

長い夏休みが始まります。子どもたちは、この夏休みをどの様に過ごすのでしょうか。虫捕りに行きたい、海で泳ぎたい、魚釣りをしたい、そんな自然の中での遊びを満喫する時代ではもうないのかも知れません。しかし、この長い夏休みを飽きることなく遊ぶことが許されているのもやはり子どもの時期だけでしょう。何をして遊ぼうか、誰を誘おうか、どこへ出かけようかと子どもたちはわくわくしながら、この夏休みを過ごすこと、そのこと自体が子どもにとっては大切な経験です。

子どもが、子どもとして、子どもらしく過ごすことの意味とはどのようなものでしょうか。人間にとっては、それぞれの成長の時期に応じた、その時にこそ経験しておくべき大切なことがあります。赤ちゃんはその全てを母親に委ね、世話をしてもらえらるからこそ心の安定を獲得します。また、幼児期には様々な興味や関心が原動力となって、自ら動き出し、観察し、知識としてではなく、自分を取り巻く環境を自らの五感を通して感じていきます。まさしく、「子どもの仕事は遊び」と言われるように、子どもにとっては遊びそのものが、人間として必要な様々な感性を養っていく手段であるわけです。また、他の子どもに対する興味が生まれてくるのもこの時期で、また同じ遊びに興味があるからこそ、ある時には取り合いになったり、意見がぶつかったりもするわけです。しかし、だからといって一緒に遊ぶことをやめてしまうかと言うとそうではなく、「喧嘩するほど仲が良い」とも言われるように、自分の気持ちを表現し、また相手の気持ちを受け止めることを通して人間そのものを知り、さらにお互いのことを理解して信頼関係を深めていくのです。

今の時代は、少しでも早く先んずることが人生の成功に繋がるかのように、様々な早期教育が宣伝されています。しかし、先んじて経験することは、その時に本当に経験すべきことを、しそこなっていることも知らなければなりません。そして、その結果、人と付き合うことが苦手で、感性が乏しく、言われないと何も出来ない大人がどんどん増えているようにも思います。

子どもの本来の遊びは、自分の興味や関心のあることを、自ら考えてやってみて、上手くいかなくてもまた出来るまで繰り返しやってみるといったことに意味があるのだと思います。これは、決して与えられた楽しみや、与えられた課題をクリアして褒められたり、ご褒美をもらったりすることではなく、とても主体的で自律的な行動であるわけです。しかし、これは決められたスケジュールの中で与えられた、細切れ時間の中での遊びでは達成するのは難しいものです。時間がたっぷりを与えられた夏休み、子どもを親の思い通り、期待通りに扱うのではなく、子ども自身が自らの意思で動き出すことが許される時であって欲しいと思います。

年主題 「あふれる愛 小ききものとともに」

8月主題 「やってみる」

聖句 “いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し 心に広い道を見ているひとは。”
(詩編84：6節)